

# どんびま

2011年9月30日発行

発行者 椀の湖農業小学校

## ヒガンバナ

彼岸花は秋の彼岸頃に開花するからこの名がついた。

別名の曼珠沙華は仏典に由来し、天上の花という意味も持っているが、全草有毒である。故にネズミやモグラなどを防ぐために、田の畔や墓地に多く植えられたと言われている。

死人花、地獄花など不吉な異名が多いのは、その有毒性と墓地・彼岸などからの連想

だけでなく、花茎と花の独特な姿と、艶やか過ぎる赤い色によると思われる。

北海道から琉球列島まで全国に分布するが、自生ではなく中国から稲作の伝来期に入って帰化したと考えられている。日本中に存在するヒガンバナは全て遺伝子的に同一であり、三倍体なので雄株雌株の区別がなく種子で増えることはできない。中国から伝わった1株の球根から日本各地に株分けで広まったと考えられている。生命の強さと歴史を考えさせられる赤い花は、白いソバの花にも、黄金色の稲穂にもよく似合う花である。 (草)



<夜になると・・・かかしのパーティだ！>

## 10月授業日のご案内

- 日程 10月16日(日)
- 受付 9:00～ 9:30
- はじめの会 9:30～ 9:45
- 授業 9:45
- (収穫・畑仕事) ～12:00
- 昼食 12:00～13:00
- 授業 13:00
- (稲の脱穀・焼き芋) ～15:00
- 終りの会 15:00～15:30

●締め切り 10月11日(厳守)

●問い合わせ・緊急連絡

- 持ち物 手袋、タオル、雨具、着替え  
買物袋(たくさん)、箸、食器

●郷土料理 栗赤飯、豚汁ほか

☆文集の原稿を持参してください。

農小での楽しかったこと、心に残ったこと、ご意見、思い出の絵、何でも結構です。同封の原稿用紙に、濃く書いて下さい。

(書き方は、5ページ)

10月の授業日に欠席の場合は、10月25日までに事務局山内まで郵送して下さい。

TEL0573-75-4417・09051109362

FAX0573-75-4418 (山内總太郎)

## ～農小レポート～

# 案山子に見守られて稲刈り

とにかく今年は雨が多い。大きな被害をもたらした台風 12 号の後、次々と台風が生れ 15 号はまた沖縄近辺で停滞して本土上陸をうかがっているかのよう。予報では今日は一日だけの晴れとのこと。朝から快晴。誠に稲刈り日和の秋の空が広がった。

- 1 栗ひろい 今年も長雨と日照不足で実りが遅れていると聞いていたが、台風前の晴天と高温で挽回したようだ。早生と晩生の間に入る端境期となってしまう、今年も参加人数も多かったから、個々の収穫は過去最少になってしまった。
- 2 畑の授業 ハクサイの苗を植え付けた。柔らかい苗を上手に植えることができた。続いて、カブの種蒔きをした。先生方に蒔いてもらったダイコンの生え具合を観察した。  
畑の除草、雨で雑草は元気に育ち、雨で除草作業ができないので益々伸びる悪循環。
- 3 昼食。 松茸ごはん、きのこ汁、トマトサラダ、ひじきサラダ、シイタケの天ぷら等  
昔は子供でも近くの山でキノコを採る事ができたが、今では杉・桧の植林地が増え、雑木林は薪を採らなくなり手入れをしなくなって、環境が変わって、キノコの生え場が少なくなったさえあるに、猪などに荒されたり、熊の出没で山に入れなかったりする。山村に住んでいても、山のキノコは貴重品になってしまったのだ。
- 4 田の授業。 稲刈り。稲刈り鎌を使って稲を握った手の方に滑らせないように気をつけて刈りとる。今年も稲の出来が良く、一株が大きかったので 5～6 株を 1 把(わ)に束ねた。去年のワラを使って束ね縛るのはお父さんお母さんの役だ。生徒さんは各自 3 把ずつ持ち帰ってハザ掛けをした。これを 10 月授業日に脱穀する。  
残りの稲はコンバインで刈り取り、カントリーに持ち込んで玄米にする。これは 10 月までハザ干しすると、過乾燥になって食味を落としてしまうからだ。
- 5 案山子の解体。 稲刈りを終えて、各自の案山子を持ち帰り、1 か月にわたる田んぼの見張りに感謝しつつ、解体した。何体かは希望者に引き取られ見張り番を続ける予定。
- 6 バケツ稲コンクール。 今年も多くの参加出品があり、先生方による審査が行われた。バケツ稲にも天候不順が影響したのか、例年に比べて、籾も穂も小さい印象だった。茎の分けつ・成長が良く大きな穂が付いていても、半数近い籾が実の入っていないものや、夏の暑さに負けてしまった様子のももあり、バケツ稲作りの難しさを改めて思った。
- 7 かき氷 いやあ、今日は暑かった。夏に戻ったような暑さの中で頑張ったお駄賃は、かき氷。子どもさんたちだけでなく大人も大喜びだった。

## ～ちょっと一言～

農家では、「秋」は米の収穫の代名詞のように使われる。また、「採り入れ」「刈り取り」「脱穀」なども、他の作物の場合と違い、わざわざ「稲(米)の・・・」とは言わない。「○○の・・・」と付けない時は米に決まっているのだ。稲作は日本の農業の柱であり、コンバインの時代になっても、稲刈りは農家の秋のメインイベントに変わりがない。

秋のイベントといえば運動会。走ることに遅かった私は運動会は好きじゃなかった。だけど、力いっぱい走ったりした運動会の終わった時の爽やかさは嫌いじゃなかった。

皆さんの運動会が爽やかな気分で行われますように祈っている。

～あぼ兄の百姓ぼなし～

## 不作の秋に思う

稲刈り前に、女性の先生方が雑草とヒエ抜きをやってくれた。「あぼ兄、やっといたよ」という報告の後に「畔際の周りはよくできているが、中に入ってみると酷い穂首イモチにやられているよ」と聞いていた。イモチ病とは、高温多湿でしかも肥料が良く効いているときに、イモチ菌が葉について茶褐色の斑点ができ、ひどい時は枯れてしまう葉イモチという病気を言う。穂首イモチとは出穂期に穂の元にそのイモチ菌がついて、穂の軸が枯れて栄養分が穂にいかなくなり、粳が成熟しない病気のことだ。

授業日、生徒さんに刈ってもらった残りをコンバインで刈ったが、案の定、手応えがなかった。後日、ライスセンターのまなちゃん（農小スタッフ安江学）からの報告に改めてがっかりした。今年の収穫は3袋半、つまり105kg。これは平年の半作以下である。

振り返ってみると、今年は梅雨が早く上がり生育は良かったが、7月の末頃には稲の葉の色が少しさめなければならないのに、「農小の稲は色が良すぎる(濃い)のではないか」という声を聞いていた。つまり肥料の効き過ぎが心配だということだ。

その原因はあぼ兄の肥料のやり方にあった。去年まではオカラや米ヌカや畜フンなどを混ぜ合わせて、長いこと発酵させたあぼ兄堆肥を使っていたが、今年は下呂市の友人の豚フンを使った。量は控えめに、撒き方もむらの無いように気をつけてやったつもりだった。後日彼に聞いたところ、チッソ成分が想定していたより倍以上も高いことを知らされて、びっくり。がっかりだった。昨今の一般的な稲作栽培は、有機堆肥などはほとんど使わず、化学肥料をギリギリまで使って多収穫をねらい、病気が出ると農薬に頼る栽培が普通だ。自負を持ってやっていた有機栽培で、堆肥の入れ過ぎとは本当に恥ずかしい限りだ。

不作の秋になると、あぼ兄は幼いころの食事を思い出す。我が家は育ち盛りの兄弟が多い大家族で、副食などは無く、米にたよった食事で一日の米の消費量は驚くほどだった。当時は作柄に関係なく決まっている年貢米や供出米(農家に割り当てられた米)の他に、肥料代や生活費のツケを差し引くと、自家で食べる保有米は不足になった。農家にとって米は現金と同じだから、米を買うことには抵抗がある。その不足分を補うためには、麦の方が多いご飯、サツマイモや木の葉などを入れたご飯を食べた。自家産の小麦を背負って行って交換してきたうどんが毎夕食に出ることもあった。それでもうどんはごちそうだった。栄養の計算どころか、空腹を満たすのがやっとの時代だった。おやつと云えばサツマイモ、ジャガイモ、煎り豆。それでも農家だったからで、食べられるだけマシだった。

テレビ番組で「土」をテーマに農小を取り上げてもらって以来親交のある俳優の川津祐介さんは、農業新聞の「わたしの食」というコラム欄に「夢はお腹いっぱい」と題して食糧不足の時代を書かれていた。川津さんが「物心ついた時」空襲の続く東京での「毎日おなかが空いて目が覚め、空腹を抱えて寝る」生活の中で「白米のご飯をおなかいっぱい食べられたら、その後すぐに爆弾が落ちてきて死んでもよいと思っていました」とあった。

農家の収入と云えば、養蚕などで多少の現金収入はあったものの、現在のように野菜を売ることなどなかったから、不作の秋は農外収入つまり出稼ぎに出たものだ。

農小が家族であれば、あぼ兄は出稼ぎに出なければならないことになる。最近足腰も弱り、なにしろ年だから暖かい南の方面へ行きたいものだ。

～かなちゃんの虫日記～

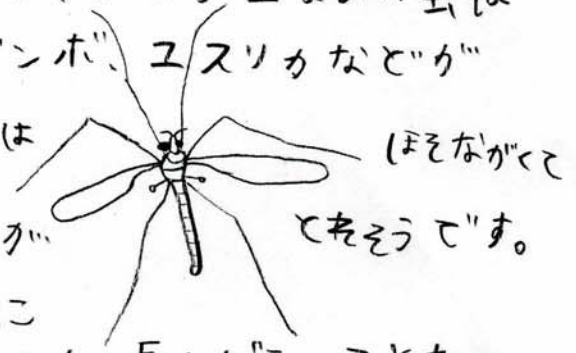
ある秋の夕方に、小学校から帰ってきたら、夜ごはんを作っていたお母さんが「つせん ひざ」をちょっとまけて、手をこすりあわせて、「ハエのまね。」と言ったのをふと思い出しました。秋になったので。すずしくなったからか、ハエもへってきた気がします。ハエ、て いるとうとうしくて たたきたくなってしまいますよね。でもちょっとまって、1度でいいのではねをじっくり見てみてくださーい!! ふつう、虫ははねは4まいですが、ハエのはねは2まいです。うしろのはね2まいが『へいきんこん』という小さなはねみたいなものになっています。これはとぶときにバランスをとるためのものです。



これのおかげで、こまわりをきかせて、とってもじょうずにはやくとべるそうです。だから、

たたけそうでもひよいとにげられてしまうんですね。虫の中でもいちばんはやくとべるんじゃないかと思っています。うとうしいけど、なんだかそんなけいしちやいますね☆

このへいきんこんをもっていて、はねが2まいの虫はハエのほかにも、アブやカ、ガガンボ、ユスリカなどがいます。ガガンボのへいきんこんは先がまるくてしかりにもバランスが



わたくしごとですが、10月23日にバリエの発表会があります! わたしも長くバランスとれるようにへいきんこんがほしいです!!!



## 文集原稿の書き方についてお願い

原稿用紙は2種類あります。

- ・低学年（3年生以下）は10ミリ原稿用紙に書いて下さい。
- ・高学年と親さんは7ミリ原稿用紙に書いて下さい。中央の左右横2列づつを空けて、太い線の枠内に2段に書いて下さい。
- ・どちらも太い線の枠内の最初に「題」と「氏名」を書いて下さい。

皆さんの原稿はそのままコピーをとって印刷にかけますので、できるだけ濃く書いて下さい。

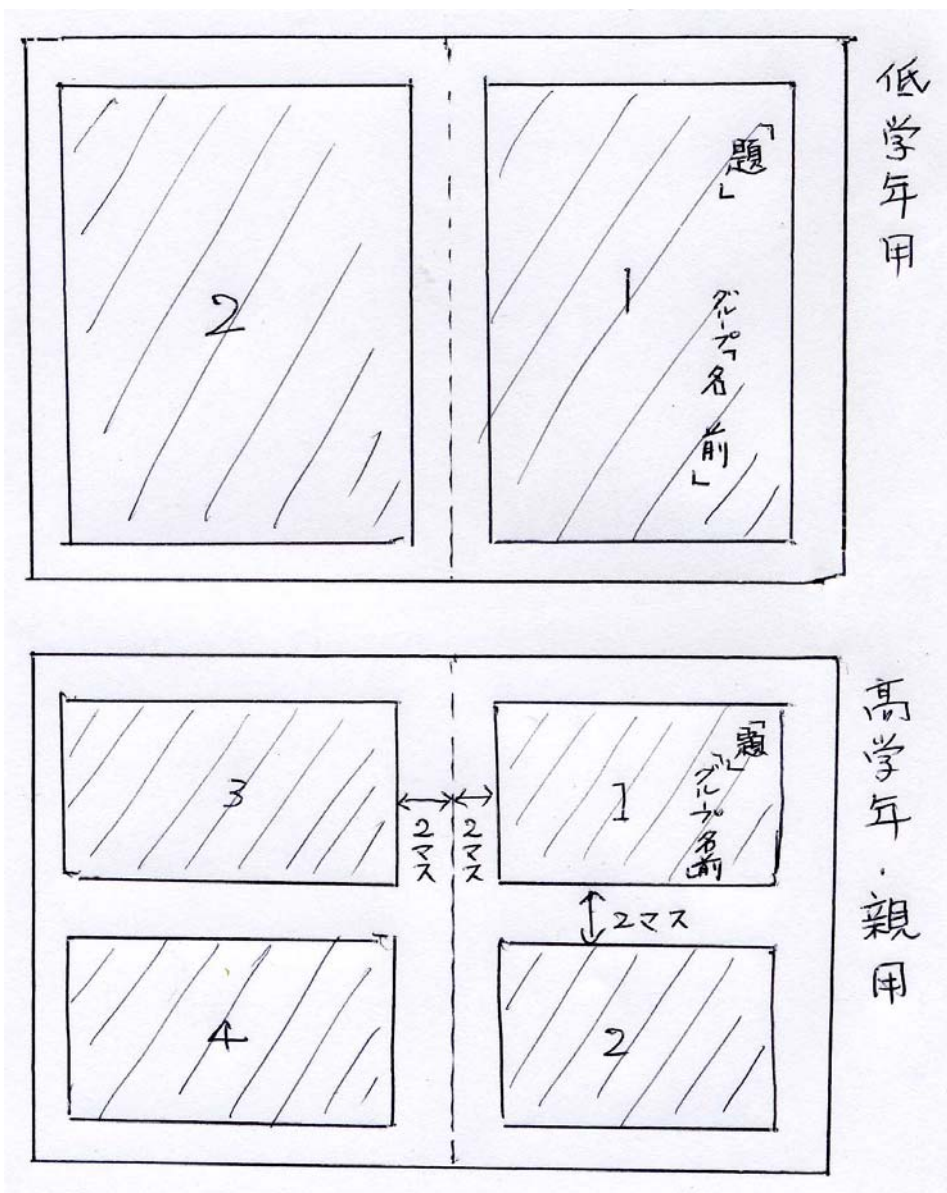
鉛筆なら2B・4Bがいいかも。

消しゴムで消して書き直す場合は前の字をきれいに消して下さい。

文章だけでなく、絵・スケッチももちろんO.K.です。

皆さんの一番心に残った事、楽しかった事、関心があった事など何でもお書き下さい。

農業小学校に対するご意見も是非お願いいたします。



第18期  
椀の湖農業小学校

卒業記念

# 作品展

平成23年11月27日(日曜日)

農小の卒業式の日です

椀の湖自然公園ギャラリー

農小の受付をする建物です

# 作品を出してください

「夏のもの作り教室の作品」を持ち寄ってください。

その他 農小で撮った「写真」思い出を描いた「絵」など

なんでもけっこうです。 作品は当日持参してください。